

兵庫朝鮮関係研究会結成 40 周年&

『秘録—在日コリアンヒストリー』出版を祝う会

山根 俊郎

去る2月25日(日)12時半(12時開場)から神戸三宮の中華料理の名門 神仙閣(神戸三宮駅から徒歩約7分・神戸市中央区下山手通2丁目13-1)で、むくげの会が主催して兵庫朝鮮関係研究会(兵朝研)結成40周年&『秘録—在日コリアンヒストリー』出版を祝う会が盛大に開催されました。

会場の神仙閣は、神戸における在日コリアンの結婚式場のメッカとして有名なようです。

私も1980年代に申仁弘さんの息子さんの結婚式に招かれて行ったことがあります。あまりにも祝賀客が多くて、私たちは別室でスピーカーから式の状況を聞きながら料理を食べた経験があります。

今回は、飛田さんが来られるお客さんの人数を事前に正確に把握されていて7人掛け丸テーブルが4ヶ。29名がお祝いに参加されました。参加費5,000円。本代3,500円は別。

定刻になり、飛田雄一さんが司会をされて、兵朝研の代表である徐根植さんから開会のあいさつがありました。冒頭に会員の高祐二さんが去年の年末に退会された、と報告されました。

私は、とてもショックでした。今回の本にも執筆しているし、去年10月には兵朝研で韓国釜山に旅行したのに…高祐二さんには、今後も旺盛な研究活動を期待したいです。

(兵朝研の紹介:1983年、兵庫の在日朝鮮人史を研究するために金慶海、洪祥進、徐根植が設立。兵庫県における在日コリアンの歴史を調査研究し書籍等に記録に残すことをめざしている。会員の思想、信仰、所属団体は問わない。月例の研究会を開き会報『兵朝研』を発行。

著書に、『地下工場と朝鮮人強制連行』(1990)、『在日朝鮮人90年の軌跡—続・兵庫と朝鮮人—』(1993)、『近代の朝鮮と兵庫』(2003)、『兵庫の大震災と在日韓国・朝鮮人』(2009)、『在日韓国・朝鮮人の歴史と現在』(2013)。他に『兵庫と朝鮮人—祖国解放40周年を記念して』(1985)、『釜山と朝鮮人強制連行』

(1987)。金慶海、金英達以外の会員の著書に、鄭鴻永『歌劇の街のもうひとつの歴史—宝塚と朝鮮人』(1997)、徐根植『鉄路に響く鉄道工夫アリラン—山

陰線工事と朝鮮人労働者』(2012)、高祐二『在日コリアンの戦後史—神戸の闇市を駆け抜けた文東建の見果てぬ夢』(2014)など)

今回2024年2月20日発行『秘録—在日コリアンヒストリー』(明石書店)は兵朝研の本

左から高龍弘、徐根植、金勇秀としては8冊目です。各自が40周年ということでテーマを決めて執筆されたそうです。コロナ禍にもかかわらず、本を出せると言うのはすごいパワーだと思います。

その後には、兵朝研の前半30年分のスライドショー(朴永淑さんが制作)と後半10年分のスライドショー(徐根植さんが制作)が連続して上映された。

懐かしい人たちの顔を見ることができました。亡くなられた鄭鴻永さん、金慶海さん、金英達さん、尹達世さん。また現在、ご健在な方々も髪の色があつたり、黒かつたり…

今日の宴会は鄭鴻永さんの息子さんであるプロカメラマンの鄭世和さん(神仙閣の専属カメラマンとのこと)が撮影されていました。45周年の宴会では見ることができるでしょう!!!私も面識がありとても誠実な人です。

乾杯のご発声は、辻本久夫さんがされました。昔と変わらずお元気でした。

食事は、伊勢海老などが次々と出されました。量は適量で丁度良かったです。

むくげの会が座った席は、明らかに他の席よりもビール(中瓶)を多く飲んでいました。紹興酒まで頼む始末。

来賓のあいさつの最初は、朴一大阪市立大教授です。数年前に軽い脳梗塞をされて左半身が不自由になり「阪神高速」(半身梗塞)です、と駄洒落を飛ばされ軽妙なスピーチ。出版社がどんどんつぶれていく、と嘆かれていました。





集合写真 趙正熙さんの FACEBOOK から転載。

前列左から、明石書店の黒田貴史、朴一、金勇秀、徐根植、高龍弘、李惇玉（徐根植の妻）、辻本久夫、申元美（高龍弘の妻）、飛田雄一、方政雄

次のあいさつは、堀内稔さん。そして私でした。昔に徐根植さんからお子さんの朝鮮学校の音楽の教科書をコピーさせてもらった話などして終わろうとしたら、飛田さんから歌を催促されて得意の『釜山港に帰れ』（돌아와요 부산항에）を歌いました。会場の雰囲気少しほぐれたようで嬉しかったです。次に細見和之さんのスピーチが続いた。

ここで「あいさつ一部」が終わり会食に集中



する。「あいさつ二部」は、飛田さんのオカリオとFMワイワイの朴明子さんのハーモニカで童謡『半月』（반달）、『故郷の春』（고향의봄）の

合奏で始まりました。飛田さんは参加者全員にスピーチを要請されました。皆さんは指名されると嬉々として前に出て楽しく話されました。ポストコロナで久しぶりの宴会なので皆さんは話したいことが多いようです。それぞれの話に共感を持って熱心に聞き入っておられました。

私が印象に残っているスピーチは、かなり高齢の金泰煥（民団兵庫団長）さんのお話でした。

「先程、歌を収集している人（私の事）がおられました、この歌は楽譜も残っていない 100年前の歌です」と言い『青春放浪歌』（청춘방랑가）を朝鮮語で歌われた。私は、知らなかったが、

後列左から、大和泰彦、孫敏男、藤川正夫、山根俊郎、川那辺康一、堀内稔、信長正義、金信鏞、韓光勲、細見和之、深田晃二、古田圭策、宮内陽子、朴明子、山本紀子



鄭世和



金泰煥



趙正熙

朴燦鎬著『韓国歌謡史Ⅱ 1945-1980』p390 に記述されていた。「韓学同で永くうたい継がれた『青春放浪歌』という歌がある」と歌詞紹介。元歌は 1937 年発売された『九十里坂』（구십리고개・金雲灘詞、趙子龍曲、金龍煥歌）。

韓国から趙正熙さんと安海龍さんがお祝いに駆けつけてくれました。お二人とは 2018 年 4 月 22 日むくげの会の韓国合宿時にソウル東大門の食堂で村山俊夫さんの紹介でお会いした方です。

趙正熙さんのスピーチは私が通訳をしました。安海龍さんは流ちょうな日本語で話されました。お二人ともとても感動されていて韓国の若い研究者たちを連れて来て交流したい、とのこと。

大和泰彦さんが『イムジン江』（임진강）を朝鮮語で歌うと大ウケでみんなが合唱しました。

ようやくスピーチが終わったのが午後 3 時半。大幅に時間超過、3 時間を優に越えていました。最後に全員で集合写真を撮りました。（終）